Ⅲ　魚類防疫対策事業

小　川　　　健・木　村　　　創

目　　　的

魚類防疫対策事業実施要領（1989年9月，水産庁）による。

事業の内容と結果

1　魚類防疫対策事業

1）魚類防疫

（1）魚類防疫会議

ア　防疫会議

表1のとおり県内防疫会議を開催し、近年四国・九州で発生し大きな問題となっているブリの黄だん症対策について検討した。

表1　防疫会議開催状況

年月日	開催場所	主な構成員	主な議題
'89. 4 .17	串本町	水産課 水産増殖試験場 水産試験場 水産業改良普及員 かん水養魚協会 各地域防疫検討会代表	1988年度魚病発生状況 ブリの黄だん症および 防疫推進構想について

イ　防疫検討会

検討会は表2に示すとおり各地域ごとに開催し，昭和63年度魚病発生状況とブリの黄だん症について検討した。

（2）養殖魚巡回健康診断

各養殖地域を毎月1～2回定期的に巡回し，養殖魚の健康診断を行うとともに漁場環境の維持を図った。

2）水産用医薬品指導

（1）医薬品適正使用対策

県下4地域の養殖現場において，海面養殖漁業者に対し医薬品の適正使用を指導するとともに，1990年3月14日，白浜町において県下海面養殖業者30名を対象に，医薬品の適正使用について説明会を開催した。

（2）医薬品残留検査

出荷のために水揚げされる養殖ブリを対象に背部筋肉中の医薬品残留検査を実施した。サンプリングは，1989年12月26日と1990年1月8日に中部海域から，1991年1月5日に東部海域から，ブリ1年魚について行った。いずれも最終投与薬剤はエリスロマイシンであったが，全検体とも残留は認められなかった。

なお，医薬品の残留分析は財団法人日本冷凍食品検査協会に委託し，同協会神戸事業所で実施した。

2　特定魚類防疫強化対策事業

1）特定魚類防疫強化対策

(1) 魚病発生防止対策

ア　養殖場の定期観測

'89年4月から，90年3月まで毎月1～2回，各海域の養殖漁場1～3ケ所で，水温，DO，比重および透明度を測定した。

イ　魚病情報の収集・伝達

ブリのハダムシ症，ブリの黄だん症，マダイの繊毛虫症および各県・県内魚病発生状況について，養殖研究所，南西海区水産研究所，県内養殖業者および漁業協同組合の間で情報の収集・伝達を行った。

(2) 防疫対策定期パトロール

'89年4月から，90年3月にかけて毎月1～2回，各養殖地域のパトロールを実施し，ブリの健康診断および魚病の予防・治療についての指導ならびに防疫監視を行った。

(3) 種苗魚病検査

養殖用種苗を対象に，ブリ5件，マダイ4件の魚病検査を行った。ブリでは2件がビブリオ病，3件が類結節症で，マダイではビブリオ病1件，滑走細菌感染症2件，イクチオボド症1件であった。

表2　防疫検討会開催状況

年月日	地域	開催場所	主な構成員	主な議題
'89.6.7	南部	串本町	水産課 水産増殖試験場 水産試験場 水産業改良普及員 関係漁協 養殖漁業者	1988年度魚病発生状況およびブリの黄だん症について
'89.6.22	中部	白浜町	〃	〃
'89.7.14	北部	由良町	水産増殖試験場 水産業改良普及員 関係漁協 養殖漁業者	〃
'89.7.25	東部	那智勝浦町	〃	〃